

## 平成27年度第2回江田島市総合教育会議 議事録

平成27年11月18日(水)、農村環境改善センター1階営農相談室において、平成27年度第2回江田島市総合教育会議を開催しました。

### 1 開会及び閉会に関する事項

開会 午前10時30分

閉会 午前11時27分

### 2 出席者

#### (1) 構成員

|               |         |
|---------------|---------|
| 市長            | 田 中 達 美 |
| 教育委員会委員長      | 三 島 雅 司 |
| 教育委員会委員長職務代理者 | 樋 上 美由紀 |
| 教育委員会委員       | 柳 川 政 憲 |
| 教育委員会委員       | 今 井 絵里子 |
| 教育委員会教育長      | 塚 田 秀 也 |

#### (2) 関係者(教育委員会事務局)

|                  |         |
|------------------|---------|
| 教育次長             | 渡 辺 高 久 |
| 学校教育課長           | 畠 藤 邦 子 |
| 生涯学習課長           | 山 井 法 男 |
| 西能美学校給食共同調理場総括場長 | 木 場 副 行 |
| 江田島図書館長兼能美図書館長   | 木 場 久仁子 |

#### (3) 総合教育会議事務局

|            |         |
|------------|---------|
| 総務部長       | 山 本 修 司 |
| 総務課長       | 小 栗 賢   |
| 総務課 行政係 主任 | 山 崎 充 宏 |

### 3 傍聴人

なし

### 4 議事日程

- (1) 議事録に署名する者の決定について
- (2) 協議第2号 平成28年度新規・拡充事業について
- (3) その他

## 5 議事の概要

### ○ 小栗総務課長

定刻になりましたので、ただ今から、「平成27年度第2回江田島市総合教育会議」を開催いたします。

現在、出席されている構成員は、6名でございます。

本日の議事日程は、あらかじめ、お手元に配付したとおりでございます。

なお、本日の会議には、構成員の皆様に出席していただいたほか、教育委員会事務局職員5名、総合教育会議事務局職員3名が出席しております。出席者の紹介は、お手元にお配りしています、「資料2」に代えさせていただきますので、よろしくお願いいたします。

それでは、開会のあいさつを、田中市長が行います。田中市長、よろしくお願いいたします。

### ○ 田中市長

皆様、おはようございます。今日は、大変お忙しいところ御参集いただきまして、大変ありがとうございます。

この会議は、地方教育行政の組織及び運営に関する法律の改正を受けまして、今年度から施行された新制度であり、2回目の開催となります。

本日の会議では、平成28年度当初予算の編成前の時期でもありまして、新規・拡充事業等について、協議したいと思っております。

本市の教育について協議する貴重な場でありまして、遠慮なく意見を出していただきたいと思います。

それでは、どうぞよろしくお願いいたします。

### ○ 小栗総務課長

ありがとうございました。

それでは、これからの議事進行は、この会議の議長である、田中市長にお願いしたいと思います。田中市長、よろしくお願いいたします。

### ○ 田中市長

それでは、私の方で会議を進めさせていただきます。

この会議は、公開となっておりますけれども、本日の会議には、傍聴の申込みがございませんでした。

それでは、議事に入らせていただきたいと思います。

「(1) 議事録に署名する者の決定について」でございます。

江田島市総合教育会議運営規程第14条第2項の規定に基づきまして、私とともに議事録に署名する者を決定します。このことについて、平成27年7月21日に開催された、平成27年度第1回江田島市総合教育会議において申し合わせましたとおり、「資料2」の名簿の構成員の下段からの順番とします。よって、今回は、今井教育委員会委員にお願いいたします。

なお、江田島市総合教育会議運営規程第14条第1項の規定に基づき、議事録を作成する者には、総務課 山崎主任を指名いたします。

それでは、次の議事に入らせていただきます。

「(2) 協議第2号 平成28年度新規・拡充事業について」でございます。

内容につきましては、塚田教育委員会教育長に説明を求めます。よろしく願いいたします。

○ 塚田教育委員会教育長

平成28年度の新規・拡充事業について、今日は、3点ございます。詳しくは、学校教育課長をして説明させます。

○ 畠藤学校教育課長

平成28年度新規・拡充事業案について説明いたします。

資料5ページを御覧ください。平成28年度新規事業「ICT活用事業」について（案）でございます。

事業を実施する理由といたしましては、まずは、児童生徒の学力向上です。授業でICT機器を効果的に活用することにより、各教科等の目標を達成し、児童生徒の学力を向上したいと考えております。

アの「広島県「基礎・基本」定着状況調査の結果」を御覧ください。現在の江田島市の児童生徒の学力の状況といたしまして、広島県の平均通過率の差を表にお示ししております。全体的に小学校は県平均を上回っておりますが、中学校では、県平均を下回る教科がございます。

次に、イの教育基本法に基づき政府が策定する総合計画であります、第2期教育振興基本計画の中に記載のございます、「基本施策25」に「良好で質の高い学びを実現する教育環境の整備」として、「教育用コンピュータ1台当たりの児童生徒数3.6人」、「教材整備指針に基づく電子黒板・実物投影機の整備」、「超高速インターネット接続及び無線LAN整備率100%」が挙げられています。

さらに、ウの学習指導要領での位置付けといたしまして、現行学習指導要領では、各教科等の指導に当たっては、児童生徒がコンピュータや情報通信ネットワークなどの情報手段に慣れ親しみ、コンピュータで文字を入力するなどの基本的な操作や情報モラルを身に付け、適切に活用できるようにするための学習活動を充実するとなっております。

次期学習指導要領を検討する中央教育審議会の部会では、学習指導要領等の理念の実現に向けて必要な支援方策等として、ICTも含めた必要なインフラ環境の整備を図ることも重要であるとされています。

次に、資料6ページを御覧ください。教員の業務改善についてです。校務でICT機器を効果的に活用することにより、教員の事務負担を軽減し、子どもと向き合う時間を確保したいと考えております。

文部科学省の「教員勤務実態調査」の結果では、教員の残業時間は月約34時間と、昭和41年度の同調査の月約8時間と比較して大きく増加しており、学校の負担が増し、教職員の多忙化が進行しております。広島県教育委員会は、「業務改善プロジェクト・チーム」を設置され、県立学校、市町立小中学校が学校の業務改善に取り組んでいます。平成27年度は、県内に業務改善モデル校62校を指定されました。江田島市の指定校は、大柿中学校です。

これらの理由をもとに、事業内容として、2点について実施してまいりたいと考えております。

1点目といたしましては、「教科指導におけるICT活用」の推進です。4つございます。

1つ目としては、アの指定校において、無線LAN環境及びタブレット1人1台の環境を整備し、研究させたいと考えております。次年度は、指定校を拡大するとともに、指定校以外に波及させるようにいたします。

2つ目としては、イの文部科学省「平成25年 学校における教育の情報化の実態等に関する調査」において、本市の学校職員の研修の受講率が全国に比べて低いことから、市教委主催研修を実施いたします。併せて、校長に対して長期休業中の学校主催研修を開催するように指導するとともに、市教育研究会の視聴覚教育部会長に対してICT活用を研究するよう指導いたします。

3つ目としては、ウの市教委及び学校職員が、先進校を視察します。

4つ目としては、エのリーダーとなる学校職員を文部科学省主催研修や県教委主催研修に計画的に参加させたいと考えております。

事業内容の2点目ですが、「校務の情報化」の推進です。

内容としては、業務改善の観点から、全校に「校務支援システム」を導入したいと考えております。

校務支援システムとは、今まで、テストの点数を入力したら成績表や指導要録に反映させたり、手書きで処理していた業務を、パソコンで行ったりできるなど効率的に業務を進めることができるシステムです。

資料といたしまして、資料7ページから12ページには、広島県教育委員会がまとめた「校務のICT化等に係る取組状況」を配付させていただいております。他市町の状況について、確認して見ていただけたらと思います。

「ICT活用事業」についての説明は、以上です。

続いて、資料13ページを御覧ください。平成28年度拡充事業「外国語指導事業」について(案)です。

事業を実施する理由といたしましては、児童生徒の英語力の向上です。教職員の授業力を向上させるとともに、児童生徒に目標を持たせ、学習意欲を高めることにより、児童生徒の英語力を向上させたいと考えております。

現状といたしましては、(1)の「広島県「基礎・基本」定着状況調査の結果」を見ていただきますと、平成25年度から平成27年度の過去3年間の中学校英語の平均通過率は、県平均を下回っております。生徒の質問紙の「英語が好きですか?」という質問に対しては、今年度は、上回っておりますが、平成25年度・平成26年度は、県平均より大きく下回っております。

次に、学習指導要領での位置付けといたしまして、現行学習指導要領では、小学校第5・6学年でそれぞれ週1時間の外国語活動の授業を行っております。次期学習指導要領が、小学校は平成32年度から、中学校は平成33年度から施行される予定ですが、小学校第3・4学年でそれぞれ週1時間の外国語活動の授業が行われます。小学校第5・6学年では、それぞれ週2時間、教科として、英語科の授業が行われます。中学校の英語科の時間数は、未定となっております。

国の第2期教育振興基本計画では、国際共通語としての英語力の向上が挙げられており、英語力の目標としては、中学校卒業段階で英検3級程度以上、高等学校卒業段階で英検準2級程度から2級程度以上を達成した中高校生の割合を50%にすると示されております。

現状といたしましては、平成26年度の江田島市の中学生の英検3級以上の合格者は、全生徒の11%となっております。詳細は、表のとおりでございます。

事業内容といたしましては、外国語指導助手(ALT)の配置拡充を考えております。ALT

等の外部人材を1名加えて、さらに活用することにより、ネイティブの英語に触れさせるとともに、国際理解を深める学習活動の展開をしてみたいと考えております。

次に、英語検定の受検料の補助を考えております。英語検定を活用することにより、中学生の英語に対する学習意欲を向上させるとともに、生徒の英語力を向上させます。近隣市町の補助の状況は、次のページのとおりでございます。

最後に、現在も実施しておりますが、イングリッシュキャンプへの補助です。中学校教育研究会英語部会が主催するイングリッシュキャンプにおきまして、ALTを派遣し、グローバルマインドや実践的なコミュニケーション能力の育成を図りたいと考えております。

「外国語指導事業」についての説明は、以上です。

続いて、資料15ページを御覧ください。平成28年度新規事業「中学校エアコン設置・小学校エアコン設計事業」について（案）です。

事業を実施する理由といたしましては、快適な学習環境の整備です。

近年の温暖化等による猛暑により、学習環境の悪化が懸念されています。市内小中学校の普通教室及び特別支援学級教室にエアコンを設置し、快適な学習環境を整えるというものです。

まず、学校保健安全法に基づく文部科学省告示である「学校環境衛生基準」において、教室等の温度の基準は、「10℃以上、30℃以下であることが望ましい。」とされています。改訂版の学校環境衛生管理マニュアルには、その解説として「児童生徒等に生理的、心理的に負担をかける最も学習に望ましい条件は、冬期で18～20℃、夏期で25～28℃程度である。」とされています。平成27年7月から9月に中学校の室温調査をしたところ、表のとおりとなっております。国の基準より、かなり高いことがわかります。

近隣市町における普通教室及び特別支援学級教室へのエアコン設置状況ですが、平成27年7月現在の状況で、西部教育事務所管内の設置済み市町は、1市2町でございます。呉市は、平成31年度までに設置予定で、平成28年度から順次、設計を行うとのことです。広島市は、耐震工事と合わせて順次、設置予定ということでした。

では、江田島市内の小中学校のエアコン設置状況ですが、現状といたしましては、普通教室には、エアコンは設置されておりませんが、特別支援学級教室には、設置されている学校がございます。職員室、校長室、保健室、パソコン教室には、全校設置されております。

事業の内容といたしましては、(1)の中学校普通教室と特別支援学級教室の設置工事を行うということと(2)の小学校の調査設計業務委託を行うということを考えております。中学校につきましては、既に設計業務を終了しております。

「中学校エアコン設置・小学校エアコン設計事業」についての説明は、以上です。

以上で、説明を終わります。

#### ○ 田中市長

ありがとうございます。

ただ今の「(2) 協議第2号 平成28年度新規・拡充事業について」の説明を受けました。内容は、3点ほどでありましたが、これについて、質問や御意見がございましたら、御発言願います。

順番は、どれからでも結構ですので、この3つについて、御意見をいただければと思います。それに基づきまして、来年度の予算編成に当たりましての参考にさせていただきたいと思ってい

ますので、遠慮なく御発言を願えればと思います。

今まで、教育委員会の中で、このことについての議論は、されていたのでしょうか。

○ 塚田教育委員会教育長

今日の教育委員会会議でも、この資料で協議しましたし、前回の教育委員会会議のときにも、資料をお配りして、事前に見ていただいております。

○ 三島教育委員会委員長

この3点について、一遍に全部ということではありませんし、予算要求をすることが本旨ではない。もちろん、それも大切なことなのですけれども。思うのは、これをすることによって、子どもたちをどういうふうに育てるか、あるいは、どういう子どもたちになってほしいかということ、我々は、わかってほしいと思うわけです。予算を付けてエアコンを設置してあげる、それが目的ではない。その先を見ていただきたいと思うわけです。

この中にもありますけれども、今は、グローバル人材を育てようということになっておりまして、グローバルな人材とはどういうことかとなると、はっきりしたことは説明できないのですけれども、日本だけでなく、外国でも暮らせる、仕事ができるようにする、そういう能力を持った人材を育てましょうということ<sup>うた</sup>を謳おうと思うわけです。

そのために、我々は、今、こういうことを市長にお話しさせてもらっているということを一番理解していただきたいと思っています。

具体的な内容については、エアコン設置は、贅沢だという意見があるかも知れませんが、かなり環境が、子どもたちにとっては負担になっているのではないかという思いもします。

そういったところも含めて、これをした結果、子どもたちがどういうふう<sup>へい</sup>に育っていくか、どういう子どもたちを育てたいかということを知っておいて、我々が思っているのは、もちろん、世界に羽ばたいてほしいのですけれども、第一は地元、故郷を大切に思う気持ちを育て、なおかつ、世界に向かってその能力を発揮できる人材を育てたいということです。そういうところをくみ上げていただきたい。

○ 樋上教育委員会委員長職務代理者

私は、元教員という立場からものを言うてしまうのですけれども、昨今、いろんな学校に行つて子どもたちの姿を見せてもらうのに、江田島の子って素晴らしいなというところをたくさん見せていただいています。昨日も、一昨日も、その前も、ずっと小中学校を見せていただいているわけですが、すごいなと思っています。情報社会の進む速さについて行けない私がいるものですから、学校の中でも昔を引きずってなくて、どんどん進んでいますよね。

20～30年前の教育では、はっきりいって通用しません。そういう中で、ICTは、特に、よそはどんどん進めていって、子どもたちが主体的に学習に臨んでいる姿を視察させていただきましたが、主体的に、アクティブラーニングといいますか、そういう子どもたちを育てていこうとする日本とか世界があるわけではないですか。ICTは、先生たちへの効果も大ですし、生徒たちへの効果も大ということが、いろんなところで実証されている中で、そういう環境をつくってやらなくてはならない。あれだけ頑張っている子どもたちだから、何とかしてやりたいというのは、本当に思いました。

何かにつけて難しいとは思いますが、エアコンのことにしても、この資料には「快適な」とありますが、快適ではないんですね。快適なことを望むだけでなく、三島委員長が言われるように、負担のない教育環境をつくってやりたい。私がいたときから、それはすごく感じていましたし、どんどんと地球温暖化で、苦しい状況で子どもたちが授業を受けていることもありますので、快適でなく、平常な中でやらせてあげたい。今はもう、エアコンは贅<sup>ぜい</sup>沢ではない、家庭でもそうですので、そう思うところです。

○ 塚田教育委員会教育長

エアコンが出ましたので、この資料に、小学校と中学校を比べて、中学校を先に付けていただきたいということを書いております。なぜ、先に中学校をするかというのは、中学校の方が夏休みに多くの日にちを学校に来らせるというのがあるからです。

夏休みに入ってすぐのときには、補充学習で1週間くらい来らせるということがあったり、夏休みの終わりには、2年生が職場体験学習をするということで、1、3年生を学校に来らせるということがあることから、中学校を先に付けていただきたいということです。

○ 今井教育委員会委員

タブレットを使って授業をするということは、全国どこでもできることだと思うんですよ。島の中で、限られた人数の中で勉強するというのは、子どもたちにとって足りない部分が出てくると思うんですけど、情報化社会の中に置いてけぼりにされないためにも、島でもできること、人数が少なくてもできることをどんどん進めていければ、保護者としても安心ですし、今から切っても切り離せないものなので、家にパソコンがあればよいですけど、そういう家庭も少ないですし、子どもたちにそういうものを触れさせる機会を与えてもらうとすごく助かると思います。先生の教育がしっかりしていないと、せっかくものを与えても授業になっていかないの、その辺の研修プログラムにも配慮していただければと思います。

英語については、やはり外国人に触れないと気後れするというか、英語が喋れても勉強ができても駄目だと思うので、先生たちや外国の方との交流の場を設けるとか、市でできることはたくさんあると思うんですけど、今からは英語ができる自信につながっていくと思うんですよ。島だから外国人に会えないというのではなくて、江田島市でもできるんだと、江田島市で英語を学んだから自分たちに自信が付いていると、社会に出ていってもらいたいなということを思っています。

エアコンについても、これだけ温暖化が進んでいますと、日常生活の中でエアコンがないと生活できなくなってきましたので、勉強となると、エアコンがないと集中できないと思います。中学校から徐々にということなのですけども、なるべく早くそれを小学校まで普及していかなければと思います。

○ 柳川教育委員会委員

I C Tについて、子どもに聞いてみたら、「お父さん、いいよ。」と言っていました。興味を持って授業を受ける、好きなことに対してもっと積極的にいけるのは、よいのではないですかね。

外国語について、ここにもありますように、国際共通語で、ビジネスにおいても、英語は必須ですね。この島において携わる水産業、農業も、英語力を身に付けて世界に勝負していく、そう

いう江田島っ子がバンバン世界に出ていくんだという発想を持ったら、費用はかかりますけれども、初期投資というのか、子どもは無限に力を持っていますので、地域や行政が後押ししていかなければいけないと思います。

エアコンについて、忍耐というよりも、効率的に授業ができるところからみても、暑いと思う前に授業に専念できることが、より効果的であると思います。是非、その辺りも含めて、設置してもらえたらなと思います。

○ 田中市長

ありがとうございます。

総論でいえば、それぞれしっかり進めてほしいという意見だと思います。どういった場合でも、施設といったもの話には、ないよりはあった方がよいというのが一般的な考えなので、皆様の意見は想像していたのですけれども、言われるとおりで。やれば、それなりの効果があります。

例えば、エアコンを付ければ、夏は涼しい、冬は暖かい、それなりの効果はあります。行政側とすれば、予算を編成する側とすれば、やりたいねというのはあるのですけれども、全体的なことの中で物事を判断しているので、皆様の御意見がこうだったということについては、議事録に残りますので、そこらも斟酌して物事を進めるようになるかと思います。

他にまだ、この3つの中で、もう少し掘り下げて御意見があればと思うんですが、どんなでしょうか。

ICTについて、家でも、ほとんどの子どもたちは、スマホを使っていると思うんですけれども、パソコンも家で持っている子どもは、相当多いのではと思います。どうなんでしょうかね。家にパソコンがあっても、今回の場合は、学校の授業であったり、教員の時間の余裕をつくるために導入するということなので、家にパソコンがあるとか、スマホで遊ぶのとは別のことです。あくまで教育上のことなので、話は違うと思うんですけれども、IT社会の中で、子どもたちは慣れているような気がするんですよ。

教育的な面から導入しようという話なので、気になるのは、先生の学校での時間の余裕をどうにかできないかということです。これを導入すると、先生の時間に余裕ができるということなのですが、実際にはどうかという気がします。導入したときに、子どもの授業における学力の面と、先生の時間の余裕が出るということなのですが、実際にはどんなでしょうか。説明では、出るようになっていますが。

○ 樋上教育委員会委員長職務代理者

先程から、教員の事務処理のことが出ていましたが、私も、昨年、一昨年と、竹原市の中通小学校のICTを使った授業を見させていただきました。本当に、目から鱗という授業で、事務処理がどうのこうのというのが問題ではなくて、授業の中身が、子どもたちが主体的に臨めるもので、先生もすごく工夫をされます。授業一つについて、すごい研究をされているなということを思いました。

今の話では、先生が楽をするために導入するみたいな雰囲気を受けたのですが、そうではなくて、授業が変わる、指導内容が変わるということの方が、ねらいとしては、一番だなと思っていますし、そうでなければいけないと思います。あまりそっちの方を強調するのではなくて、指導内容が変わるということの方に考えてもらいたいなと思っています。



授業を見てもらったら、本当にわかりますよ。びっくりでした。中通小学校の授業を見て、こんな授業があるのかと。私たちは、こんなことしたことないよという授業でしたから。でも、それが当たり前になっていっていると思います。

○ 塚田教育委員会教育長

今、樋上委員が言われたのは、広島県で先進的な竹原市の中通小学校ですね。学校でICT機器を使うことは、いわゆる、教育の情報化というのですけれども、使われ方が3つあるといわれています。

1つ目は、コンピュータそのものを教える。中身をハードとかソフトとか、使い方、情報モラル、その使い方を教える。それが、コンピュータを教える。これは、どの学校でもやっています。

2つ目は、コンピュータで教える。樋上委員が言われたように、コンピュータを道具として、コンピュータを使って子どもたちに効率よく教える。これが、先程の中通小学校の目から鱗<sup>うろこ</sup>の授業です。

最後の3つ目は、業務改善、校務の効率化です。忙しい先生の仕事を効率化して、コンピュータを使って仕事を集約して、効率よくやって子どもと向き合うというものがあります。

今日の資料には、3つのうちの2つ目と3つ目を載せております。

三島委員長も言われましたように、一遍に全部は無理で、当然、市長も市全体を考えて判断されます。今日は、協議ということで、我々の意見を自由に言わせていただくということでございますので、その点をよろしくお願いします。

○ 田中市長

他にございませんでしょうか。

自由に発言していただいて結構です。

○ 塚田教育委員会教育長

昨年度から、1校当たりタブレットを4台ずつ配ってやっております。そこら辺りの実績、報告、学校の意見がある程度まとまっていますので、今度、資料として見ていただきたいと考えております。

○ 柳川教育委員会委員

さっきの続きですけれど、子どもたちは、楽しむということの前に、「普通」と言うんです。私たちが見たら、すごいな、こんなに授業は変わったんだなと思うんですが、当の本人たちは、ごく当たり前なんです。「普通だよ、楽しいよ」と言うんですよ。

難しく考えるのではなくて、新しいことに対して入っていけるという、特有のものがあるのですけれども、自然にあるものと同化している感じを受けました。

○ 三島教育委員会委員長

ICTに関しては、教育委員会会議、文教厚生常任委員会、全員協議会の報告でも、議員も、かなり関心を持っている報告があります。議会でもタブレットを使ってやろうかという話もあつたりするようすだけれど、議員も、どうなんだと考えています。

樋上委員も言われていましたけれども、教員の業務改善は、教員が楽をするという意味ではないということはわかっていただけたと思います。余裕の時間ができるということは、子どもたちに向き合わなくてはいけないということなんです。時間がとれるということなので、むしろこっちの方を先にやって、教員の質を上げてから子どもたちの方をやってもらいたいなと思います。

○ 田中市長

私が興味を引くのは、事務が合理化できるというか、余裕ができるということが一番大きいという気がするんです。余裕ができると、他のことに時間を取ることができますし、頭の中で考えることもそっちにとることができます。

教員の学校の中での仕事がどんどん増えて、余裕がなくなるというのですが、仕事を減らすことはできないんですかね。難しいですかね。我々には、学校の中のことが見えないので、一般的に言われるのは、仕事が増えて子どもと接する時間がなくなるということは、ICTを導入してこうということに結び付くのですが、なかなか現状では、この仕事はいらぬのではとかないのでしょうかね。

○ 塚田教育委員会教育長

学校の先生が忙しいというのは、先程のペーパーにもありましたように、日本全体でそういった傾向にありまして、世界の国と比べて、日本は多いのではないかなと思っています。

広島県教育委員会も、平成23年から、プロジェクトチームを立ち上げてやっています。どの市町にもあるのですが、今年は、江田島市では、大柿中学校が指定校となって取り組んでおり、1年目でやっています。その中で、先生方が話をして、業務改善のために何ができるか、いろいろ工夫できることはないかということで話をしており、実行しています。

先程の県教育委員会のまとめた資料の一番最後の方には、今回のシステムの導入状況ということで、各市町の状況が出ていましたけれども、これから導入する市町は、増えていくのではないかなと感じているところです。いくつかの業者からデモンストレーションを見せていただきましたけれども、「今日は、江田島市に来る前に、どこどこ市で説明をした後で来ました」とか、「全国の自治体の中でこれだけ導入しています」という資料を見せていただきましたし、だんだん導入してくるところは、増えてくる傾向にあるのではないかなと感じております。

○ 田中市長

仕事量が多かったら、当然、どうするかということを考えるんですよ。学校の現場だけでなく、一般的な民間でもそうですし、市役所もそうです。仕事量が増えたら、どうしたらこれを速くこなせるかということを考えるんですよ。

その結果が、事務的なチェックをコンピュータでやらしてもらおうということで、どんどん入ってきているんです。それだけでは、解決できないことがあるという気がします。なぜかという、元々の仕事を考えないと、細かいことを言うんですが、教育の仕組みがわからないので、はっきりとは言えないのですけれども、類似のものを一つにするとか、現場にいて国県が言うてくることでなくてもよいことやしなくてよいことはないんですかね。それとも言われぬんですかね。どうなんでしょうか。

○ 塚田教育委員会教育長

平成23年に県教育委員会にプロジェクトチームを立ち上げて、それから何年か経つわけですが、その中で、大柿中学校指定以前に、いろんな県内での指定校を指定して取り組んでおられます。そこからいろんな意見が市町教育委員会や県教育委員会に出されていて、あれはなくした方がよいとか、できるだけ効率化していこうという意見は、かなり吸い上げられていると思います。それに応えて、行政も、仕事を少なくする工夫は、されていると思います。

そういった状況ですが、学校に限らず、仕事は、市の行政もどこも忙しいでしょうから、まずは自分たちで考えて、考えて考えて効率的にやっいていこうというのは、基本にあると思います。

○ 田中市長

学校だけでなく、我々も同じなんですよ。特に、行政というのは、国の法律や制度ができたから、それに対応する仕事はどんどん増えています。ときには、江田島市にほとんど関係ないことでも、国の法律で作っていることなので、対応しないといけないことがあります。

国レベルや県教委がしましようというときに、江田島市に関係ないものもないことはないのではないかと思います。仕事の量を減らすことを考えれば、一番大事な気がします。塚田教育長が言うには、これまでは取り組んできていますということなので、やっておられると思います。

○ 樋上教育委員会委員長職務代理者

柳川委員も言われたように、若い人には普通なんです。仕事をこなすこと、パソコンを使うことが普通なんです。私が3時間かかることが、若い人は30分もかからないんです。ということは、私は忙しいんですよ、3時間かかるから。若い人たちは、30分でできるから、速いんですよ。だから、他のことができる。そうかといって、相手が子どもだから、いろんな仕事があるんですよ。

取り入れてほしいのは、そこら辺のことで、若い人は当たり前前に教員になって当たり前前にこなして行って、速いです。そういう環境をつくってあげるとは、もっと仕事ははかどることだと思います。私にとっては辛かったし、今でも、年代の高い人は辛いと思います。

できるだけ環境をつくってあげたいと思っていましたが、余りにも進むのが速いから、ついていけない自分がいました。今も、そういう人がいると思いますよ。それは、どの業界でも同じで、私の子どもたちの会社では、紙媒体がいらぬ世界で仕事をしています。それが普通になってきている日本です。学校も、そうなりつつありますよね。

○ 三島教育委員会委員長

確かに、業務改善のシステムを入れたから、学校の先生の業務が減って余裕の時間ができるかといったら、先程、市長が言われたように、根本的なところを改善しないと、また同じようなことが出てくるという可能性は確かにあると思うんですね。

日本の教育は、人を育てるのが仕事なんです。人を育てるとは、知識を与えるのではない、教え込むのではないんですね。関わったら、いろんなものが出てくるとなると、この制度で改善できたけれど、次の問題が必ず出てくると思うんですね。でも、これを入れないと、さらに負担になってくるということだと思っんですね。そこら辺りも考えていただければなと思っしました。

○ 田中市長

いろいろと御意見をいただきまして、ありがとうございました。参考になりました。最初に申し上げたとおり、来年度の予算編成が進みますので、そういった中で、今日の御意見を参考にさせていただきたいと思います。

それでは、次の議事に入らせていただきます。

「(3) その他」についてでございます。

何か協議又は調整しておくべきことがありましたら、お願いしたいと思います。せっかくの機会ですので、総合教育会議についてでも、何かあれば、お願いしたいと思います。事務局からは、別にないですかね。ないですね。皆様の方からは、ないですか。よいですか。

それでは、ないようなので、本日の会議を終了いたします。本日は、大変ありがとうございました。それでは、司会を事務局に返します。

○ 小栗総務課長

本日は、皆様、大変ありがとうございました。

以上をもちまして、「平成27年度第2回江田島市総合教育会議」を終わらせていただきます。ありがとうございました。